

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.45
2016. September

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

クロザピン病棟開棟1周年

～フルーツコンサートでお祝い～

東II病棟(クロザピン専門病棟)師長 澤田 鶴子

琉球病院は、昨年7月15日に「50年に一度」の大引越し行い、3階建ての素敵な新病棟へ移動しました。

念願であった、全国初のクロザピン専門病棟を引っ越しと同時に立ち上げました。2010年から、治療抵抗性統合失調症に有効なクロザピンと呼ばれる専門薬で治療されている患者さんも、同時にクロザピン専門病棟に移動しました。

新病棟はエレベーター前から、金武湾が見える癒しの場所になっています。引越し直後から、患者さんには慣れない環境の中、緊張と不安で動揺も伺え「広すぎて分らなくなっている」等、さまざまなソフト面やハード面についての問題に対処しながら、安全な病棟運営を柱に大きなリスクも無く今年1周年を迎える事ができました。

新病棟は、病床数56床の男女混合病棟で、現在55名の患者さんがクロザピン治療に専念しています。統合失調症の特有な幻覚・妄想症状が改善し、コミュニケーションや日常生活レベルも整い、ご家族の皆様から「クロザピンの内服薬」に対する関心が高く、多くの患者さんが回復過程をたどり自宅や施設へと生活レベルに沿った退院促進を行っています。

木田医師センター長は「県内どこに住んでいてもクロザピンの治療を受けられ、退院後も自宅や近くの施設で通院を続ける事と離島地域まで連携が取れる」事を目標に、病棟職員と日々努めています。去った7月29日(金)クロザピン専門病棟にて開棟1周年をお祝いし、フルーツコンサートを開催しました。



沖縄本島内を中心に活躍している、フルーツ奏者の島袋成香さんをお招きし、限られた時間内で最新曲から沖縄民謡まで、生演奏して頂き、心地良い時間を過ごしました。朝から飾り付け、マイク、舞台づくりを職員と患者さんと一緒にを行い、すてきな会場を作り、他病棟からも多くの患者さんや御家族が参加され、手拍子や沖縄の曲が流れると大きな歓声やハミングする方など、気づけば、小ホールがたくさんの患者さんや職員

で一杯になっていました。アンコールも沸き起こり、いつにない患者さんのパワーを感じました。最後に患者さんからの「花束贈呈とお礼の言葉」を伝え、久しぶりの演奏で緊張していた島袋さんから「元気を頂き、明日から頑張れます」と、感謝されていました。短い時間でしたが、患者さんの笑顔や楽しかった様子が伝わって来ました。これからも、クロザピン病棟スタッフ一同、患者さん、ご家族の期待に沿える看護を提供していくよう努力してまいります。クロザピン治療のご希望や病棟ご案内はいつでも設けていますので御連絡下さい。宜しく申し上げます。

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き

進捗状況 本体内工：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
新病棟（第2期工事）雨水配水管盛替工事 完成予定・・・平成29年2月
重症病棟建替等工事 完成予定・・・平成30年10月

教育・研修

●教育・研修 沖縄県精神科病院協会主催療養者グランドゴルフ大会
日時：平成28年9月23日（金）10:00 会場：沖縄県総合運動公園レクリエーションドーム

●地域医療連携室だより

地域医療連携室では、子ども診療科の新規受診相談も行っています。中北部だけではなく南部や離島などの遠方からも受診相談が増えています。相談件数も多く、受診までお待たせしている状況が続いておりますが今後も皆様が無事に相談できるよう取り組んでいきたいと思っております。受診に関するご質問などがありましたらお気軽に地域医療連携室にお問い合わせ下さい。



空床状況

8月29日現在

精神科病棟
3床

認知症
4床

アルコール
1床

児童思春期ユニット
1床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・子ども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/那覇BS(下)または名護BS(上)より沖縄/バス
[77番名護東線]浜田/バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は177例になりました。平成28年7月のCLZ導入は2例でした。2例とも他の病院からのご紹介例で、うち1例は入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成28年7月の治療実績は1例であり、改善傾向が認められています。

こども心療科

当院には子ども専門の入院ユニットがあります。子どもたちが元気に回復し、学校や地域に戻っていけるよう、入院治療では医師や心理士による面接、心理教育の他、調理実習や運動を作業療法士と行ったり、入院中に関係者とカンファレンスを開催しています。入院治療の取り組みの1つとして、入院中でも季節を感じ、窮屈な入院生活が少しでも楽しくなるように、四季折々の行事にあわせてユニット内で様々な企画を立て実施しています。今回は夏休み企画として、みんなで海にピクニックに出かけました。海水浴を楽しむ子、東屋でスタッフとゆっくりおしゃべりを楽しむ子、かき氷作りを頑張る子など、それぞれが自分のペースで参加し、楽しむ様子が見られました。医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、心理療法士と多職種で同伴しましたが、普段病棟では見られない子どもたちの様子を見て、子どもたちの強みと集団の力を再認識することができました。

認知症医療

認知症の啓発活動として当院で開催する研修と、地域や施設へ当院の講師が出向いて勉強会や事例検討を行う出前講座を行っています。

当院で行う研修は昨年、民生委員や施設職員、地域包括支援センターの方においでいただきました。研修内容は認知症病棟の見学、認知症疾患の理解やケアの実際、認知症の人との接し方についての講義です。研修生の人数も多い時は30名から少ない時は4~5名の時もあります。また認知症の事は何も知らないという方から、実際のケアでどうしたら良いか分からないという現実的な問題を抱えている方も様々です。琉球病院としては事前に研修内容の希望をお聞きして、それぞれのご要望に応じた研修を行っています。

出前講座は、実施する場所に応じて内容も様々です。公民館で行う場合は対象者が地域にお住いの皆さんですので、認知症についての基本的な知識や、認知症の方の介護方法・自分が認知症にならない予防のための実用的な工夫をお話しします。施設で行う職員対象の出前講座では、事例検討を行いながらケアの工夫を検討します。また、施設の入所者や通園者を対象とする場合は、理論的な難しい話行わず、認知リハビリテーションのメニューをいくつか実際に行ってもらうこともあります。出前講座の内容は、知識の勉強や技術の習得、アセスメント能力の向上、認知リハビリテーションの実際など様々です。講座を担当するスタッフも様々で、医師が診断と治療の話を行い、看護師がケアの話、作業療法士が生活の工夫やリハビリの話、心理療法士が認知機能や認知リハビリテーションの話、栄養士が認知症を予防する食事の話を行います。

当院での研修実施や講師派遣を希望される方は、地域医療連携室までお問い合わせください。お待ちしております。

重症心身障がい医療

ⅠⅡ病棟では障害者総合支援法のもと、療養介護における運営を行っています。

療養介護では個別支援計画の作成が求められます。個別支援計画とは利用者の思いの実現に向けた計画となりますが、重症心身障害病棟では自らを表現される事が苦手な方が多い状況です。そのような中で、ご家族の思いや、常日頃から関わる支援者の感性、気付きが大きく影響します。利用者の意志を尊重し適切にご希望を実現できるような働きかけの為に、ご家族や成年後見人を含め多職種による話し合いを行っています。

利用者の皆様にとって豊かな生活へと繋がるよう継続した取り組みが重要となります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では7月現在、外来通院の患者様62名、入院中の患者様30名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

猛暑の夏が真っ盛り。厳しい季節に日々猛暑対策を訪問看護でも説明をしています。自宅にいても、熱中症になると新聞やニュースで報道しています。訪問対象者の方も、室内の気温調整が上手く出来ない方がおります。室内の換気を良くすること。水分はこまめに摂ること、十分な休養を取る等を指導しています。公共施設も、冷房が効き快適な場所であり、日中の避難場所としても勧めています。旧盆の時期には、精神面でも不調を訴える方が多くなります。そのようなときには、訪問看護スタッフや地域の支援者、早めの受診をする等相談をしてください。

臨床研究部活動状況

『沖縄県石垣島における運転免許更新時におけるAUDIT調査の報告』 医師 福田貴博

平成26年6月~同年9月において沖縄県警察安全運転学校八重山分校における運転免許更新受講者(20~69才)に対し、基本属性、講習受講区分、AUDIT、初飲年齢等を含む調査用紙を配布した。1829件回収のうち、不備のなかった1711件(男性841人、女性828人、平均年齢45.2才)を解析対象とした。AUDITの得点は、15点以上7.6%、8~14点23%、1~7点42.2%、0点27.2%であった。また、男性において、初飲年齢20歳未満と回答した群と20歳以上と回答した群で比較すると、初飲年齢20歳未満ではAUDIT15点以上が19%、初飲年齢20歳以上では12%であった。さらに、講習区分別にみると、男性の違反講習(過去5年以内に違反行為又は事故を起こした方)受講者において、AUDIT15点以上は18.6%、男性の優良、一般、初回講習受講者において、AUDIT15点以上は、12%であった。運転免許証更新をする者の中で、問題飲酒者、アルコール依存症疑いがそれぞれ23%、7.6%であった。初飲年齢が20歳未満と回答した群では、アルコール依存症疑いの割合が高かった。違反講習受講者は、他の講習受講者よりもアルコール依存症者疑いの割合が高かった。